

やさしい自然派住宅の
つくりかた

そざい Sozai Note のーと

vol.10

文・西條 正幸 エコ空間デザイナー

北海道伊達市出身。

自然と人にやさしい建築デザインを専門とし、
建築デザイン事務所ピオプラス西條デザインを主宰。
オーガニックな暮らしをライフワークに、
仲間との有機農園やマーケットの運営、
講演会やワークショップなども企画、開催している。

家作りに参加する セルフビルドの すすめ



ドイツ・ダルムシュタットのエコロジカル団地内に建つ連棟長屋式住宅
木の板壁に高山植物の草屋根を乗せ、誰が見てもすぐにナチュラルハウスとわかるデザインだ

安全な建材選びが必要不可欠

住み手が、家づくりの計画から施工にまでできるかぎりかわることは、とても大切なこと。ドイツのダルムシュタットにあるエコロジカル住宅団地では、外観は無塗装で木の板張り仕上げのシンプルな仕上げにし、室内は住み手が自由に造ることのできる「スケルトン・インフィル」の考え方を取り入れた、様々なデザインの建物が建ち並んでいた。セルフビルドは、もともと施主が家づくりに参加することが十八番のドイツ人にうってつけで、自ら内装を手がけようとすれば、自分たちの健康にリスクのかけられない安全な建材を使うことが、必要不可欠になる。

銀行融資の「筋肉担保」

このエコロジカル住宅団地では、住人自らが工事に参加するセルフビルドが取り入れられている。なんとこの労働力が、銀行融資の「筋肉担保」として認められ、建設資金の一部になつていることには驚かされた。そうした背景もあつて、家を建てる人たちの多くが自ら建設工事に参加しているの、安全でエコロジカルな建材や塗料などを見分ける目も、自然と厳しくなっているのだろう。ドイツでは10%、オーストリアでは50%以上の住宅が、住み手自身によつて建てられていると言われている。家は「買う」物ではなく「造る」という考えだ。このため、100組の家族には100通りの住まいの提案が必要になつてくる。

家族や友人を集めてチャレンジ

僕たちの周りにも、セルフビルドを取り入れて、施工施工に挑戦する人たちが少しずつ増えてきている。床のフローリングやウッドデッキを植物性の自然塗料で塗る人。床仕上げの天然ワックスを塗る人。壁や天井の仕上げはビニール壁紙では満足できないので、珪藻土や漆喰塗りにチャレンジする人など、積極的に家づくりに参加する機会をつくるようにしているからだ。珪藻土や漆喰塗りは、部屋の湿気を吸ったり吐いたりする吸放湿機能に優れている上、空気をきれいにし結露防止にも役立つことから、ここ数年で人気の仕上げ材となった。やわらかな自然の色合いと素朴な質感は、精神的な安らぎも感じさせるおすすめの一品！ 左官屋さん気分になり、自分の気に入ったパターンをラフに仕上げたなら、家族や友人を集めてトライするのもいいと思う。プロのようにフラットに仕上げるのは無理でも、個性的なコテムラ仕上げならば、素人でも十分に施工することが出来る。中にはプロ顔負けのセンスをもった方も少なくなかった。

人件費削減でコストカット

一般的には、ナチュラルで無垢の自然素材をたくさん使っていると、仕上げの作業費がかさむことになる。材料代もさることながら、手間のかかる人件費が大きくコストに反映する。そこで、たとえば35坪の住宅で、施主が仕上げ工事をセルフビルドで行った場合どうなるだろう。床のフローリングの塗装や壁の漆喰・珪藻土塗り、更に窓枠や建具の塗装など、セルフビルドすることで50万円ほどは節約できると思う。その上、メンテナンスのコツも覚え、多少の補修やアフターケアなどは自分でできてしまう。呼吸性のある自然素材の組み合わせは、メンテナンスが面倒と思われがちだが、そんなことはない。床のフローリングや窓枠、建具・家具に塗る自然塗料の植物オイルは同じものを使用すればいいし、無塗装のコルクやテラコッタタイルなどにも使える。普段のメンテナンスはミツロウワックスなどを時々塗るだけでいい。住み手が家づくりに参加するメリットと楽しみを確かめてみよう。